

第三者評価結果報告書

総 括	
対象事業所名	川崎市津田山保育園
経営主体(法人等)	川崎市
対象サービス	保育
事業所住所等	〒213-0033 川崎市高津区下作延5-1-10
設立年月日	昭和48年6月1日
評価実施期間	平成27年11月～平成28年3月
公表年月	平成28年4月
評価機関名	けいしん神奈川
評価項目	川崎市版

総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項等）

（施設の概要・特徴）

川崎市津田山保育園は、JR南武線津田山駅徒歩7分の住宅地の中にあり、梅林など田園風景が残る地域にあります。開設は昭和48年6月1日で42年の長い歴史があり、地域に定着しています。近くには多摩川が流れており、広域ランド・緑道・公園などがあり、自然環境に恵まれており、園児が安心して散歩が出来る環境にあります。

園舎は鉄筋コンクリートの2階建てで延床面積は269㎡、敷地面積は800㎡になっています。園庭には子どもたちが自由に選択し遊べるL字マルチパーツなど各種の遊具を備えており、遊びのなかで身体を鍛え、感動したり共感する経験を通して豊かな心をはぐくむ保育を実践しています。

園児の定員は、120名で、乳児と幼児のスペースは階を分けて、扉と鍵によりしっかり区分され、子どもたちが快適に過ごせる環境が整えられています。

日々の保育は、保育理念・保育方針・園目標の実現に向けて、経験の豊かな保育士のもと利用者からの非常に高い評価を得ている保育が行われています

（優れている点）

・子どもの人権を大切にし、気持ちに寄り添ったきめ細やかな保育に努めています。

子どもの気持ちを第一に考え、尊重し、しっかりこれに寄り添った保育が行われています。子どもの人権に対しては、一人の人間として尊重し、配慮した保育に努めています。経験豊富な職員が多く、子どもの個性や日々の体調、気持の浮き沈みなどを感じ取って一人ひとりに優しく寄り添い、あるいは見守るなど、子どもの気持ちを尊重し、きめ細やかに接していることが感じ取れます。特に「人権の尊重」に関しては園の方針にも掲げて重視の姿勢を示し、強化月間の設定などを通し、子どもを思いやる優しい心を大切にしています。

・子どもが基本的な生活習慣や身体的活動が身につけられるよう支援しています。

子どもの発達状況を踏まえ、年齢に応じた身につける事項である保育活動計画を実践し、基本的な生活習慣の自立へ向け導いています。そのための健康教育、食育実践などを保育士・看護師・栄養士の専門職連携で進めています。また家庭と保育所の連携を密にして連続性のある保育をおこなうことに力を入れています。保護者へは園の活動や子どもの様子を保育内容説明会、クラス懇談会等の機会をとらえて説明し、朝夕の登降園時の保護者との会話を通して、連続した一貫性のある保育内容に努めています。

・地域の福祉向上のための積極的な取り組みをしています。

子育て情報誌への掲載、広場ノート、子育てフェスタ、高津区ふくしまつりなどで地域に向けて情報を開示しています。園庭やプールがない保育園に対しては、施設利用や教材貸出も行っています。入所していない子どもや保護者に向けて、遊びの場の提供、子育て情報の提供、子育て講座など、学びや子育ての相談の場を提供しています。保育園内だけでなく地域で子育てを見守る街づくりのため、子育てサークルなどへ職員派遣や、地域子育て支援活動を行っている団体同士のマッチングなど、地域の福祉向上のための取り組みを行っています。

（より一層の充実が期待される点）

・家庭においても日本の伝統に対する理解と実践がより一層充実することを望みます。

日本独自の伝承行事が薄れていく中、保育園では少しでもこれら伝統を伝える役割を担うとともに、各家庭でも取り入れることが、子どもの情緒教育につながります。園では各種行事のいわれを説明したり、体験したりして、家庭の団欒の中にも伝えていく努力をされています。その結果、伝

統行事を保育園だけでなく、家庭内でも伝統行事に対する理解と実践が進んでいます。今後も引き続き、これら活動を充実させるため、園は引き続き力を入れてアドバイスしていただくことを希望します。

(改善が望まれる点)

・苦情解決の仕組みの中で、第三者委員についての更なる周知が望まれます。

苦情解決については、廊下の見やすい位置に「ご意見箱」を設置し、随時受け付けています。川崎市のホームページやマニュアルにも規定され、解決の仕組みが整備・確立され、入園説明会や個別面談時にも説明・周知を図っています。しかしながら、アンケート調査の結果では第三者委員など外部の窓口については、3割弱の保護者が「知らない」と回答しています。掲示板の活用やご意見箱の傍に「解決のプロセス」の説明図を掲示するなど、第三者委員等について更なる周知の努力が望まれます。

・公営施設としての役割が多様化するなか業務の効率化の工夫が望まれます。

子ども・子育て支援新制度の小規模保育事業が実施され、公設公営の保育園として、サンライズ上作延保育園の連携園となり、また、地域の関係機関・団体の共通の課題に対して積極的に解決に向けて協働して取組を行っており、地域の中核的な福祉施設として、非常に多忙な業務をこなしております。今後、公営の施設として求められる役割が多様化するなか、新たな業務も増えていくと推測されますので、職員の人数の制限もあり大変ですが、責務を完遂するためには、業務内容の見直しを図り、業務の効率化の工夫を行う必要があると考えます。

評価領域ごとの特記事項

<p>1.人権の尊重</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの気持ちを第一に考え、一人の人間として尊重し、しっかりこれに寄り添い、配慮した保育が行われています。経験豊富な職員が多く、子どもの個性や日々の体調、気持の浮き沈みなどを感じ取って一人ひとりに優しく接し、あるいは見守るなど、子どもの気持ちを尊重し、きめ細やかに対応していることが感じ取れます。特に、「人権の尊重」に関しては園として方針の中にも掲げ、重視の姿勢を示し、教育の実施、強調月間の設定などを通し、子どもを思いやる優しい心をはぐくみ、大切にしています。 ・人権研修への非常勤職員等の参加の更なる拡大が望まれます。人権の尊重については園として、日常の振り返りの中や職員の研修参加およびその後の普及・共有、強調月間の設定、園長による訓話、次席による巡回指導などあらゆる機会に強調され、向上が図られています。非常勤職員等の研修参加についても、種々の制約がある中、多くの人に参加できるように努力されていますが、引続き勤務日や時間帯などに関する諸々の課題克服に努め、更なる施策の向上・発展に繋がるように努力されることが期待されます。
<p>2.意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・朝夕の送迎時や行事の後、個別面談、懇談会など、日常的にも定期的にも相談や意見を述べやすい体制が確保されていますが、父親に対しても「お父さんと遊ぼう会」を設けて交流を図り、率直な意見をいただき、良好な関係が作られています。朝夕の送迎時など職員は積極的に話しかけることを心がけており、保護者が話しやすい雰囲気をつくるよう努め、個別面談時には保育園への要望等日頃の思いを伺うなどしています。また、行事ごとのアンケートや保護者会などの意見から利用者の思いや意見、提案等を把握し課題を抽出、分析し改善や保育士の資質向上に努めています。 ・子ども一人ひとりの成長、発達の状態、個性、家庭環境や生活リズムをよく把握、理解して日常の保育に活かしています。児童票など個人記録に記載し職員間で共有し、自律した生活ができるように努めています。園庭での遊びでも、「L字マルチパーツ」などを活用し自分で考え、あるいは友達と協力し、いろいろなものを作り、自主性、創造力や体力を養うなど、見守りと援助のバランスを考慮しつつ一人ひとりに優しく接していることが感じられます。 ・苦情解決については、廊下の見やすい位置に「ご意見箱」を設置し、随時受け付けています。川崎市のホームページやマニュアルにも規定され、解決の仕組みが整備・確立され、入園説明会や個別面談時にも説明・周知を図っています。しかしながら、アンケート調査の結果では特に第三者委員について保護者

	<p>の認知率は低く、約3割弱の保護者が「知らない」と回答しています。掲示板の活用やご意見箱の傍に「解決のプロセス」の説明図を掲示するなど、第三者委員等について更なる周知の努力が望まれます。</p>
<p>3.サービスマネジメントシステムの確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもや保護者にとっての環境変化に対する不安解消に特に配慮しています。入園に関し、ホームページに1日の活動等の掲載、園のしおりの配布、園見学、フェイスブックなど、保育園の選択に役立つ情報を提供しています。入園後は懇談会、個別面談や園便り等で最新情報の提供に努めています。「慣れ保育」を実施し、乳児の初日は保護者同伴保育など、徐々に慣れるように配慮しています。また、いっしょに小学校へ入学する近隣園の子どもとの交流や、近隣の小学校への訪問、1年生担任を招いて「就学前講演会」など小学校就学に向け効果的な取組みを実施するなど、不安解消を図っています。 ・川崎市の防災、安全体制に連携し、効果的な体制作りに努めています。市のマニュアルに加えて園独自の「緊急対応マニュアル」を作成し、火災、異常気象、事故、不審者や感染症などに対し、細部・具体的な対応を定めています。職員個人の携帯電話にも災害や不審者情報などが入るように設定され、多種多系統の情報収集体制やそれに伴う行動基準が定められ、園全体として対応する体制が整備されています。また、職員間では、緊急連絡網や一斉メールも設定され、必要な人に情報が迅速に届く体制が整備されています。 ・防災訓練の段階的・継続的なレベルアップが期待されます。近年、首都直下型地震とか南関東大地震などの地震の脅威が叫ばれていますが、津田山保育園でも対応行動や避難訓練を毎月1回、計画的に実施しています。被害想定などの情報も収集し、暗闇や煙体験など危険を肌で感じ、印象に残るよう工夫されていますが、この種の訓練が有効に成果を上げるためには段階的・継続的なレベルアップが重要であり、惰性に陥らぬように工夫を加え、継続的取組が期待されます。
<p>4.地域との交流・連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・広報や園だよりを地域子育て支援センター、こども文化センター、区役所、市民館などの各所で広報し、事業内容などについて広く情報公開をしています。また、理念や基本方針、園の目標などについてホームページやフェイスブックで配信し、事業所に関する情報を多くの方が見られるよう情報を開示しています。 ・入所していない子どもや保護者に向けて、遊びの場の提供、子育て情報の提供、子育て講座など、交流や学び、子育ての相談の場を提供しています。また、保育園内だけでなく、子育てサークルなどへ職員を派遣し講座等を開催しています。園庭やプールがない保育園に対しは、施設利用や教材貸出も行っています。 ・川崎市社会福祉協議会施設部会保育協議会代表委員会、高津区保育まつり実行委員会、高津区児童委員強化推進委員会、高津区健康福祉まつり実行委員会、幼保小連絡会議、高津区認可保育園園長会、保健担当連絡会、作品展実行委員会などに参加し、関係機関・団体などと積極的な連携を図っています。
<p>5.運営上の透明性の確保と継続性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所が目指していることは理念・基本で明示し、年間指導計画及び各計画に展開されています。理念・方針は園運営の基本事項であり、職員や保護者に対して理解を深めるため、園長は各機会をとらえて説明を行っています。事業計画は職員の意見も重視して作成し、会議等で周知させています。計画の実施に対しては、職務分担表で役割を決めて実行するとともに、ムーブメント療育の採用などにみられるように、職員からの提案も積極的に取り入れて実施されています。 ・園が実施するサービス内容について、その結果を職員は自己評価を行い、期の反省会に反映させ、質の向上に向けた取組みが園全体として実施されていま

	<p>す。子どもの成長についても職員間で話し合いと振り返りを行い、保育活動に対する課題を明確にしています。これらの検討は定期的に機会を設けて行っています。課題抽出には、保護者の意見、各イベントで出てきたアンケート内容も活用しています。検討課題から改善点を明らかにして、改善実施計画へ結びつけています。実施結果はマニュアルの見直しや活動の仕方の改善となっています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園では日々の子どもの成長や姿を通して、保育の意図を保護者に伝えていますが、同様に家庭においても、子育て力を向上して保育の活動への取組みをさらに働きかけていく必要があると考えます。子どもにとって、園の活動と家庭での生活は連続性が大事であり、大きな開きがあることは望ましいことではありません。また、子育て支援においては、園内の充実はもちろん、子育てを支える地域作りが必要になります。職員はこれらを意識して園外にも視野を広げ、地域の状況を把握し、地域との連携強化も図っていく必要があります。
<p>6.職員の資質向上の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公設公営の保育園であり、公営保育園の民営化を視野に入れた職員の配置計画が、川崎市の施策として計画的に実施されています。園では独自に、OJTノート、研修、ジョブローテーションを取り入れながら、目指す職員像へと導いています。 ・川崎市の人材育成計画に則り職員の研修体制が計画されています。OJTとしての園内での学びとOFF-JTとしての研修の受講を、相互作用をさせながら人材育成を行っています。入庁3年まではOJTとして育成担当者がついての人材育成を行っています。経験年数に応じて身につけたい能力を学ぶために階層別研修を実施しています。 ・園には衛生安全担当の委員がおり、高津区衛生推進委員会などに参加し、区単位で、環境などの課題の提起や解決に向けての意見交換を行っています。昨年度夏季休暇を取り切れない職員がいたので、業務改善し、全員が取得できるようにしています。